

令和5年西条市二十歳の集い

丹原文化会館

二十歳の主張

高橋 彪雅

本日は、私たちのためにこのような盛大な式典を催していただき、誠にありがとうございます。

私はこの20年間で、たくさんの出会いと支えの中で成長することが出来ました。私は、小学3年生から高校3年生までサッカーをしており、サッカーを通じて家族へのありがたみを多く感じる事ができました。

試合や練習の後、ドロドロのユニフォームなどを綺麗に洗濯してくれたことや、部活で帰りが遅くなった時もあたたかい料理を作って帰りを待っていてくれたこと。また、試合会場に行く時の送迎など、あたりまえのようにしてくれていることへのありがたみをすごく多く感じました。高校を卒業し、支えてもらえることが当たり前じゃないと気づいてからは、「ありがとう」という感謝の言葉の大切さを改めて感じています。

今回、自分のこれまでを振り返ってみて、好きなことに打ち込めるように家族がずっとサポートしてくれていたことに対し、これからは受けた恩をしっかり返して行けるようにしていきます。

また、これから大人の世界の中で生きていく中で、挑戦することも増え、責任感というものがとても大事になってくると思います。自分が挑戦し、失敗してもカバーしてくれる人はいません。その失敗で人に迷惑がかかってしまうこともあるかもしれません。それでも、自分の行動に自覚と責任感を持って、チャレンジしていけるような大人になりたいと思います。

最後になりましたが、本日はこのような発言の機会をいただき、誠にありがとうございました。